



令和4年度 特集展II
願成院愛染堂の秘宝III

2022.12.20[火] >> 2023.2.26[日]

会場 大分県立埋蔵文化財センター 企画展示室
開館時間 9:00~17:00 (入館は16:30まで)
休館日 月曜日 (月曜日が祝日の場合は振替休日の場合は直後の平日)
【主催】大分県立埋蔵文化財センター 【協力】愛宕山願成院(竹田市)
【後援】大分合同新聞社 NHK大分放送局 OBS大分放送 TOSテレビ大分 OAB大分朝日放送

年末年始の休館日 12月28日(火)~1月4日(水)

大分県立埋蔵文化財センター
TEL 097-552-0077 FAX 097-552-0700

観覧無料
admission free

〒870-0152 大分県大分市牧師町1-61
E-mail a31720@pref.oita.lg.jp
https://www.pref.oita.jp/site/maizobunka/
Facebookもチェック @oita.maibun

令和4年度 特集展II Episode3
願成院愛染堂の秘宝III

趣旨
愛宕山願成院は、岡領の祈禱所として元和4年(1618)に建立された真言宗寺院である。この寺の場所は、岡城の総構内にあり、領内の工事の安全や天災回避など公的な加持祈禱に携わってきた寺である。そのため、領主である中川氏の崇敬も厚く、最重要な寺として保護されてきた。

明治時代になると、神仏分離令が下され、岡城の総構内にあった願成院は廃絶の危機を迎えるが、廃絶した大勝院跡地に移転し、その建物であった愛染堂を本堂とすることで危機を回避している。併せて泉福寺などの寺を吸収する一方、現代に入ってから隣接する観音寺との運営を一体化することで困難な時代を乗り切ってきた。

また願成院は明治時代初期の移転はあったものの、創建以来、火事にあったことがなかった。そのため、領主から寄付されたものを含め大量の文書・仏典・仏具・仏像・仏画・書画が遺され、歴代住職の尽力で護り伝えられてきたが、近年までごく一部の関係者を除き知ることはならなかった。こうした現状に鑑み、当センターでは令和元年度からの特集展「密教仏画の至宝」・特集展「願成院愛染堂の秘宝」というテーマで願成院の宝物を紹介してきた。

令和4年度の今回は、「願成院愛染堂の秘宝III」として探幽齋筆銘「福祿壽騎白鹿・蘇軾騎驢・杜甫騎驢圖」三幅一具の掛軸、浅草八幡宮本地仏像(松竹紅梅図)厨子(付)をはじめとして寺院に集積された宝物を展示し、願成院の位置付けに迫る。

主な展示宝物
2022年12月20日~

- 1期 探幽齋筆銘掛軸と様々な仏像
2022年12月20日~
- 1 蘇軾騎驢・福祿壽騎白鹿・杜甫騎驢圖: 江戸時代
 - 2 弁才天生像: 江戸時代
 - 3 如意輪観音菩薩輪王坐像: 江戸時代
 - 4 毘沙門天立像: 江戸時代
 - 5 青面金剛立像: 江戸時代
- 2期 神仏分離令に関する尊像
2023年1月24日~
- 6 三宝堂神立像: 江戸時代
 - 7 福寿明神本地仏・頭目様本地佛像: 江戸時代
 - 8 板絵板観音神像(「板観の三郎像」): 江戸時代
 - 9 愛宕権現立像・愛染堂尊像: 江戸時代
 - 10 太郎坊三尊像: 江戸時代
 - 11 祖母様本地仏像(千手観音菩薩立像): 江戸時代
 - 12 浅草八幡宮本地仏像及び厨子: 江戸時代



考古学講座「願成院の歴史と密教」令和5年1月18日(水)開催
ギャラリートーク 12月22日(木)・1月24日(火) 時間/11:00 ~11:30



写真一 一 福祿壽騎白鹿圖 江戸時代 絹本
写真一 二 蘇軾騎驢圖 江戸時代 絹本

一期 探幽齋筆銘の掛軸と様々な仏像
令和4年12月20日(火)と令和5年1月20日(火)に探幽齋筆銘のある掛軸と仏像を展示する。とりわけ探幽齋筆銘のある掛軸は、狩野探幽筆の可能性がある例である。これは大分県立埋蔵文化財センターの狩野探幽筆(中観音図)・大分山相国寺と金閣銀閣の名宝と比べてみるのも面白いだろう。また仏像は、なかなかお目にかけられない御尊像ばかりである。いずれも願成院が迎ってきた歴史を秘めているだろう。



写真一 三 杜甫騎驢圖 江戸時代 絹本

二期 蘇軾騎驢・福祿壽騎白鹿・杜甫騎驢圖(三幅一具)(写真一)
東坡轍を渡っている石橋(蘇軾騎驢圖)「一」(二)幅(福祿壽騎白鹿図)「一」(二)幅は中国盛唐の詩人杜甫を描く「杜甫騎驢圖」(一)「二」である。いずれも中国の故事から題材をとった水墨画で、余白をとり、強弱と濃淡をつけた筆運びで描く。蘇軾は蘇東坡とも言い、中国北宋代の政治家であり、文人であった。福祿壽は道教の神で、酒が好まれた杜甫を象徴する。蘇軾も有名な「舟老図」を描いている。なお「杜甫騎驢圖」は、白が好まれた杜甫を象徴する「朱文方印」(守信)・朱字小方印「探幽」であり、探幽の基準印に類似する。特に、落款の書体は蘇軾で、探幽が正保二年(1625)四十四歳の頃描いた「佐久間待賢像」にも酷似している。落款の書体は蘇軾の書体と酷似している。蘇軾の作品である可能性が高い事例として本作は極めて貴重である。

大分県立埋蔵文化財センター
TEL 097-552-0077 FAX 097-552-0700

〒870-0152 大分県大分市牧師町1-61
E-mail a31720@pref.oita.lg.jp
https://www.pref.oita.jp/site/maizobunka/
Facebookもチェック @oita.maibun